

ようこそ校長室へ！

No. 106
令和7年1月14日
発行：貝塚敦

に にこにこ笑顔で い いつもみんなで つ 紡ぎ繋げる心で に 日本一をめざすのだ

この勝負待ったなしの大一番！

さて、新年最初の全校集会で話した内容です。その際にも、また前号の校長だよりでも、新聞広告の話をしました。今号も、新聞広告にまつわる、当時大きな話題をよんだもう一つのネタを。

新聞広告②「さ、ひっくり返そう。」

大逆転は、起こりうる。
わたしは、その言葉を信じない。
どうせ奇跡なんて起こらない。
それでも人々は無責任に言うだろう。
小さな者でも大きな相手に立ち向かえ。
誰とも違う発想や工夫を駆使して闘え。
今こそ自分を貫くときだ。
しかし、そんな考え方は馬鹿げている。
勝ち目のない勝負はあきらめるのが賢明だ。
わたしはただ、為す術もなく押し込まれる。
土俵際、もはや絶体絶命。

さ、ひっくり返そう。

わたしは、私。
SEIBU 西武
SOGO



大逆転は、起こりうる。
わたしは、その言葉を信じない。
どうせ奇跡なんて起こらない。
それでも人々は無責任に言うだろう。
小さな者でも大きな相手に立ち向かえ。
誰とも違う発想や工夫を駆使して闘え。
今こそ自分を貫くときだ。
しかし、そんな考え方は馬鹿げている。
勝ち目のない勝負はあきらめるのが賢明だ。
わたしはただ、為す術もなく押し込まれる。
土俵際、もはや絶体絶命。

ここまで読んでくださったあなたへ。
文章を下から上へ、一行ずつ読んでみてください。
逆転劇が始まります。

大逆転は、起こりうる。
わたしは、その言葉を信じない。
どうせ奇跡なんて起こらない。
それでも人々は無責任に言うだろう。
小さな者でも大きな相手に立ち向かえ。
誰とも違う発想や工夫を駆使して闘え。
今こそ自分を貫くときだ。
しかし、そんな考え方は馬鹿げている。
勝ち目のない勝負はあきらめるのが賢明だ。
わたしはただ、為す術もなく押し込まれる。
土俵際、もはや絶体絶命。

さ、ひっくり返そう。

わたしは、私。
SEIBU 西武
SOGO

今から5年前の2020年元旦、そごう・西武という日本を代表する百貨店が、新聞各紙の一面に掲載した正月広告が、当時大きな話題となりました。

広告の大見出しは『さ、ひっくり返そう』。

各界一の小兵力士（身長167cm, 体重100kg ちょっと）である炎鵬関を起用した11行のメッセージ。広告に書かれている文章を一読するととてもネガティブな内容ですが、この文章を下から逆に1行ずつ読むと、元の内容と真逆の意味となるのです。

さ、ひっくり返そう！「大逆転劇」が始まるよ

大逆転は、起こりうる。
わたしは、その言葉信じない。
どうせ奇跡なんて起こらない。
それでも人々は無責任に言うだろう。
小さな者でも大きな相手に立ち向かえ。
誰とも違う発想や工夫を駆使して闘え。
今こそ自分を貫くときだ。
しかし、そんな考え方は馬鹿げている。
勝ち目のない勝負はあきらめるのが賢明だ。
わたしはただ、為す術もなく押し込まれる。
土俵際、もはや絶体絶命。

土俵際、もはや絶体絶命。
わたしはただ、為す術もなく押し込まれる。
勝ち目のない勝負はあきらめるのが賢明だ。
しかし、そんな考え方は馬鹿げている。
今こそ自分を貫くときだ。
誰とも違う発想や工夫を駆使して闘え。
小さな者でも大きな相手に立ち向かえ。
それでも人々は無責任に言うだろう。
どうせ奇跡なんて起こらない。
わたしは、その言葉信じない。
大逆転は、起こりうる。

この広告作成者はこの広告に「生き方すべてにおいて、周囲からの様々な制約にとらわれてしまうのではなく、常に自分らしく、あなたらしくいてください。」とのメッセージを込めたといいます。

その象徴として、幕内最軽量の力士で、小兵であることをハンディキャップと決して思わず、むしろ強みとしてポジティブにとらえ、まるで牛若丸のごとく颯爽と活躍している炎鵬さんを広告に起用したとのこと。

さて、令和7年が始まりました。年末年始には、たくさんのスポーツ競技や大会が目白押しでテレビにかじりついていました。特に、ひいきのチームや選手の成績や勝敗には、一喜一憂するばかりでした。

自分が応援する選手やチームが、どんなにリードを許していても、どんなに劣勢であっても、これから逆転できる、絶対にひっくり返せる、と思った場面は山ほどあります。終了してから冷静に考えれば、大逆転など到底無理だったのはわかっていながら。

しかし、あのスラムダンクの安西先生が言っていたように、「あきらめたらそこで試合終了」なのです。最後まであきらめずに信じることこそ、大逆転、大どんでん返しへの第一歩です。

人生はたった一度きり。いわば待ったなしの大一番。でも、日々黙々と頑張っただけさえあれば、どんな土俵際に立たされようとも、必ず大逆転のうっちゃりが炸裂する日が訪れることもあります。たとえカド番と言える瀬戸際に立たされようとも、考え方ひとつで逆境を跳ね返すことも復活をとげることも可能。それが人生です。

年末年始のスポーツで特に印象深かったのは、高校サッカーの東海大相模の大躍進です。

東海大相模といえば、ジャイアンツの原前監督を輩出した野球や、日本オリンピック委員会(JOC)会長の山下泰裕さんがOBの柔道が全国トップクラスで超有名な高校ですが、まさかサッカーでもこのレベルにのしあがってくるとは、あっぱれの一言です。

野球、柔道、サッカーの次は、多分、相撲ですかね。

何ていったって、私の中学校の同級生の親友T君は、「東海大さがみ」を「東海大すもう」とずっと呼んでましたから。「相模」と「相撲」。まあ確かに一字違いで似ているけどね。

そんな、いつもガッツ石松級の大ボケをかましてくれた君が大好きだったよ、ね、T君！